

航空機部品の新工場

エヌエス機器

精密加工のエヌエス機器(宮城県石巻市)は、本社工場の隣に航空機部品の加工工場を新設する。航空機の買い替え需要などで受注が伸びているジェット機のエンジン部品や宇宙産業関連の部品を研磨する工場で、4月にも稼働する計画だ。工場増強により航空機関連部門を強化し、2年後に全体の売上高を現在の1.5倍の3億円に引き上げたい考えだ。

新工場ではジェット機エンジンタービンブレードの研磨などを行う。面積は生産設備と倉庫部分を合わせて356平方メートルで、投資額は約7500万円の見通し。津波・原子力災害被災地域雇用



研磨作業にあたるエヌエス機器の従業員(宮城県石巻市の本社工場)

機体買い替え需要で受注増 研磨用、4月にも稼働

い替え需要で部品加工の受注も上向いている。格安航空会社(LCC)の台頭で機体数も増えた。日本航空機開発協会の市場予測によると、ジェット旅客機の2037年の運行機数は17年の約1.8倍の3万9867機に増加する見込みだ。

ジェット機のエンジンは消耗品で交換需要も大きいと見込まれるため、エヌエス機器は生産能力の増強が必要と判断した。宇宙関連産業の部品加工にも進出しており、拡大を目指している。

同社はかつて、自動車

ブレードは完全な機械化が難しく、手持ちの研磨用の機材を使って手作業で磨き上げる。形状が変わったり磨き方が粗くなったりするとエンジンの燃焼効率などに悪影響が出るため、メーカーの要求水準は高い。新工場では、部品を磨く以外に、ゆがみや変形がないかの検査まで行い、従来よりも付加価値を高めて出荷する。

航空機産業は機体の買

用配線の組み立てなどを手掛けていたが、メーカーが生産拠点をアジアに移したため、新事業に挑戦。航空機関連業界から本格的に受注するようになって5年目になる。

現在の売上高は全体で約2億円。このうち航空機関連は約2割だが、新工場稼働による増産で5割以上に高めたい考え。

2年後に全体の売上高を3億円まで伸ばすのが目標だ。